

申命記

申命記は聖書の 5 つ目の書であり

トラーの最後の書となります 出エジプトのあとイスラエルの民はシナイ山に 1 年ほど留まり神との契約を結びましたその後彼らは荒野をさまよいながら悲惨な旅を続け

出エジプトをした世代は約束の地に入る資格を失ってしまいました

申命記はモーセがイスラエルの新しい世代へ律法について

説明するところから始まりこの書の構成も目的もここで明らかになります 申命記はモーセが次世代のイスラエル

に対して神の契約に誠実であれと語る説教

集です この書の中心は神とイスラエル

が結んだ契約の内容である律法です

その中には新しい律法も含まれますが

多くの律法はシナイ山で結んだ契約の繰り返しです

これが再び命じるという申命記の名前の由来であり

ギリシャ語では deuteronomion 第二の律法という意味なのです

さて律法の前後にはモーセの説教が 2 つあります

これらは各々二つに分かれています

最初の各部分を詳しく見ていきましょう

モーセはまずこれまでの道のりを要約しました

前の世代が恐ろしく反抗的だったこと

それとは対照的に神が常に恵み深く

彼らを荒野で養ったことについて確かに神は正義をもって悪を裁

きましたが契約を破棄しませんでした

次にモーセが新しい世代に向かって契約に対して

親の世代より誠実であれと訴える熱のこもった説教が続きます

モーセは彼らに十戒を思い起こさせ

さらにこのセクションの最も大事なこととして

シェマと呼ばれる有名な言葉を述べます

イスラエルよ聞け主お一人がわれらの神

心を尽くし霊を尽くし力を尽くして主である神を愛せよ

これはユダヤ教の重要な祈りになり聖書にあるすべてのテーマがここに

集約されています 聞けという言葉はヘブル語でシェ

マですがこれは単に耳で聞くだけでなく

聞いたことに応答せよつまり聞き従えという意味になります

また愛せよという言葉もヘブル語では

単なる感情的な愛ではなく意志と感情と思考と意思のすべてをもってする決断であり自分を神にささげること
です イスラエルにとって神に従い
自分をささげることにはさらに大きな意味がありました
イスラエルは律法に従うことによって他の国とは違う特別な民となる
からです 神がシナイ山でイスラエルは祭
司の王国になると言いました ここでモーセはイスラエルが律
法に従うことによって神の知恵と正義を世界中に示す
ことができると説明しました シェマのもう一つの重要な要素
はイスラエルは主ただお一人に従い仕えるために召されているということ
です 主はイスラエルが礼拝し従うべ
きただお一人の神ということ
イスラエルが入ろうとしているカナンには多くの偶像がありました
太陽をはじめ天気の事象などの被造物
あるいは性や戦争をかたどった神々です
これらの神々を拝むことは人間の尊厳を貶め
共同体を破壊するものとモーセは教えました
しかし創造者であり贖い主であるイスラエルの神を礼拝するなら
命と祝福に導かれるのです さて申命記の中心にはたくさんの
律法が記されておりそれらはテーマ別で大まかに分類
されています 最初のセクションはイスラエル
の神の礼拝の仕方についてイスラエルの民の中心には唯一
の神が礼拝される宮があります また貧しい者を顧みることも神
への礼拝でした たとえばイスラエル人は毎年
収入の10分の1を宮にささげていましたが別に10分の1は
取り分けておいて3年ごとに貧しい人々へ分け与えられたのです
こういった律法はイスラエル人の正義についての感覚を近隣諸国の
それよりずっと優れたものにしましたが
それはすべて神への礼拝と結びついた行為だったので
次のセクションは長老祭司王といったイスラエルのリーダー
たちの資質について述べています 彼らはみな律法の権威の下にあり
神は彼らが責任を果たせるように預言者を送って律法を守らせると
言いました つまり王自身がまさに神であり
法律であった近隣諸国とは違ってイスラエルの指導者たちは律法
と預言者の下にある存在だったので
次の大きなセクションは民の生活についての律法で

その内容は結婚家族仕事そして未亡人や孤児
移民をどのように守るかといった社会正義についてです
最後はさらに礼拝についての律法で締めくくられています
さてこれらの律法を理解する上で気をつけるべきことがあります
まずこのシナイ契約は現代の私たちとは全く違う文化をもつ
古代のイスラエル人に与えられたものだということです
ですからこれを現代の法律と比較しても意味がありません
むしろこの律法はイスラエルをアッシリアやバビロンといった
近隣諸国とは違う存在にしておくためのものだったのですから
彼らの法律と比べてみるべきです そうすれば厳しすぎるとか奇妙
だと思われた律法が突然違って見えてくるはずですよ
つまり神はイスラエルを正義においてかつてないほどの高い
基準を持った国にしたのです 最後の一つ一つの律法の根底にある
原則的な知恵や正義を見極めようとする
非常に深いものが見えてきます これは聖書の別の書をからも学
べます第一コリント 9 章 9 節 使徒パウロが申命記 25 章 4 節を引用
し律法の真意を問うているとても
興味深い箇所です さてモーセの最後の説教を見て
みましょう 彼はすべての律法を述べたあと
イスラエルに対して神に聞き従い神を愛せと命じました
モーセはまず警告した後もしイスラエルが聞き従うなら神からの豊かな
祝福があるだろうしかし聞き従わず逆らうなら
飢饉疫病荒廃がもたらされ最終的には約束の地から追放される
だろうと言いました そしてモーセは今日私はあなた
がたの前に命と死祝福と呪い善と悪を置くだから神である主
を愛し聞き従い命を選びなさいと言って決断を迫ります
しかしモーセは私の死後あなたがたは神に逆らい
追放されるだろうとも言いました 残念な話ですがこの民と何十年
も共に過ごしてきたモーセにとって彼らにあまり期待できないことは
明白だったのです しかし希望もありますモーセは
イスラエルはさまよってもやがて心に割礼を施し心と魂を
尽くして神を愛し生きるようにさせてくださる神
に立ち返ることができると言ったのです
このことはイスラエルの民の致命的な欠陥を表しています
彼らの心は頑なですが実はこれは全人類に共通しており
元をたどればエデンの園での反逆に行きつくのです

人は神の権威を奪い取り善悪の判断を自分でしたいと願った結果
神の善き世界を台無しにしました しかし神はいつの日か人の心を
作り変え彼らが真心から神に聞き従い愛し
真の命に導かれるようにしてくださいとモーセは言ったのです
この心が新しくされるという約束は
後に預言者エレミヤとエゼキエルによっても語られます
モーセは警告と祝福を語って説教を終えると山に登り
死を迎えトラーも終わりを迎えます
聖書のストーリーのテーマは全部並べられていますが
何一つ解決がありません 悪を打ち砕く女の子孫はいつ来る
のでしょうか 神はどのようにして全世界を救
いアブラハムの子孫を通してすべて
の国を祝福してくれるのでしょうか また神の聖なるご性質は絶えず
反抗する民とどう折り合いをつけられるのでしょうか
そして神はどのようにして人の心を変えてくださるのでしょうか
答えはまだ先を読まなければわかりませんが今日はここまで
これが申命記です

500 字要約

申命記は聖書の 5 番目の書で、出エジプト後のイスラエルの歴史を記述しています。彼らがシナイ山で神と契約を結び、荒野をさまよう過程で約束の地への資格を失ったことを伝えます。申命記はモーセが新しい世代に律法を説明し、神の契約に忠実であるように説く説教の集まりです。中心的なテーマは神とイスラエルの結んだ契約である律法で、一部は新しい律法で、多くはシナイ山で結ばれた律法の再確認です。

申命記には、モーセの説教が含まれ、彼が過去の出来事を振り返り、神の恵みとイスラエルの不従順さを強調します。新しい世代に対して神への忠誠を訴え、十戒と「シエマ」と呼ばれる祈りを強調します。

申命記にはさまざまな律法が含まれており、神の礼拝方法、貧しい人々への支援、指導者の資質、社会的正義、家庭生活などに関するものがあります。これらの律法は、イスラエルを他の国々と区別し、神の知恵と正義を示す手段として機能しました。

最後に、モーセはイスラエルに神に忠実であるように警告し、祝福と呪いの選択を提示します。彼はイスラエルの未来に希望を抱きつつ、神が人々の心を変えて真の命に導いてくれると信じて説教を結びます。

申命記は、イスラエルの歴史と神の道徳的指針に関する貴重な情報を提供する書物であり、神と人々の関係についての重要な教えが含まれています。